

バラ 夜間冷房

日没後4時間で効果

静岡県農林技術研究所 ヒートポンプ有効に

静岡県農林技術研究所は、夏場のヒートポンプ夜間冷房の稼働条件による、バラの品質の違いを研究している。稼働時間を日没後4時間にした場合、終夜冷房と比べると電気代を4割減らせ、品質はほぼ同程度にできることが分かった。経費削減と品質保持を両立させる方法として、栽培指針を作成し紹介している。

研究は、広島県や農研機構・花き研究所などと共同で、2014年度までの3年事業として行った。品目ごとに各所が研究し、静岡県農林技術研究所はバラを担当した。赤色の「サムライ」で実証試験を行った。同研究所花き科の眞井秀樹上席研究員は「バラ農家では、

を稼働するが、稼働時間を①終夜②日の出前4時間③日没後4時間④なし

夜間冷房の条件によるバラの品質や電気代の違い

	切り花本数(本/株)	切り花長さ(cm)	切り花重さ(g)	花弁数(枚)	電気代(円/10a)※試算
①終夜	4.1	55.3	24.7	29.4	88230
②日の出前4時間	3.8	52.2	21.6	27.3	27403
③日没後4時間	3.8	57.7	26.5	28.3	55979
④なし	3.8	53.3	20.8	25.9	0

※電気代は2013年7～9月の金額(静岡県農林技術研究所の資料を基に作成)

も切り花の長さや重さが上回り、高品質なものが生産できた。本数や花弁数は及ばなかったが、眞井上席研究員は「①と品質はほぼ同程度といえる。電気料金を含めて考えると、③が一番勧めやすい。農家の選択肢が広

がればいい」とみる。ただし、難点もある。日没後4時間冷房を稼働させた後は、病気を防ぐために閉め切らない方が

良いため、ハウスの窓を開ける作業が必要になる。しかし、大半の農家は窓の開閉を手動で行っており、その作業を手間

と感じやすいという。同研究所は窓の自動換気装置(約2万円)の紹介とともに、栽培指針を普及していく考えだ。